

今年選挙の年、政治を変える大きなチャンスに

くらしの守り手として、 新年の決意新たに

新たな年がスタートしました。
長引く景気の低迷、社会保障の負担増、外交問題など日本の先行きが見えない状況が続く、いまの政治はその解決策をまったく示せない混迷の状況に陥っています。
このような時だからこそ将来の展望をしっかりと国民・市民に示すことのできる政治が求められていると思います。
今年選挙の年です。くらしの守り手として日本共産党の議席を伸ばしてください。みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

2011年元旦 日本共産党横須賀市会議員団

横須賀市議会 第4回定例会のご報告

ねぎしかずこ議員と 大村洋子議員が一般質問



何のための「事業仕分け」だったのか？

市民の注目を集めた事業仕分けでしたが、多くの疑問が残るものとなりました。市民は「ムダの削減」への期待、市長は「削減だけが目的ではない」と言い、仕分け人を委託した「構想日本」は独自の価値観で大なたを振るうという、それぞれ異なった思いのもとで実施されました。



ねぎしかずこ議員

市議会でも、地方自治体では一つ一つの事業について審議し、決定してきているので、事業仕分けについては疑問視する声が多くありました。

ねぎしかずこ議員の質問にたいし、市長は「予想外の厳しさ」などといいながら「事業仕分けは効果があった」と答えました。しかし仕分けの対象となった事業には福祉関連や市民にとって喜ばれているものが多く、選定が関係者・市民不在であり、抜本的改善が必要です。

市長は仕分け結果を来年度予算へ反映するとしていましたが、「利用者などの意見を十分に聞いて判断すべき」とのねぎしかずこ議員の質問に対し、市長は「そうします」と答弁しました。

事業仕分けで「不要」とされた事業 市民が陳情、請願で反撃、議会も応援

事業仕分けで仕分け人（「構想日本」の人たち）から「不要」と評価された事業のうち、「既成宅地防災工事等助成金」の存続を求める請願、「シニアリフレッシュ事業」の存続を求める二つの陳情、「はまゆう会館」の存続を求める請願が市民の機敏な動きで市議会に提出され、いずれも可決・了承されました。

「シニアリフレッシュ事業」は5人の仕分け人全員が「不要」という評価でした。このことは仕分け人たちの評価が市民や市議会といかにかけ離れているかを示しているのではないのでしょうか。

みなさんのご意見、
ご要望をお寄せ下さい。

日本共産党 市会議員団

電話：046-851-1123（呼出）
日本共産党市会議員団控室

滞納対策は強権的ではなく 市民の生活実態に即したやり方で

生活保護受給世帯へもさかのぼって滞納分を支払わせている実態を日常の生活相談活動で知り、大村洋子議員は強い疑問を抱き、一般質問で直接市長にたどしました。



大村洋子議員

今年度4月から運用がはじまった債権管理条例の中には生活保護受給世帯など資力の乏しい世帯へは債権回収の停止や放棄もうたわわれています。しかし、実態は違っていました。

大村議員は最低限度の生活しか保障されていない生活保護受給世帯から滞納回収をするのは憲法25条の生存権をも脅かすもので、やめるべきと強く迫り、市長から「市の側から積極的な納付の働きかけはしない。」という一歩前進の答弁を引き出しました。

市役所の組織改正案を総務常任委員会が否決

井坂議員の意見などが修正案に取り入れられ可決される

来年4月からの市役所の組織を改正する条例改正案が、12月9日の総務常任委員会で否決されました。二日間にわたる審議で改正の目的や効果に対する疑問が相次ぎ、全員が議案に反対。本会議でも否決されることが確実なため、市長は議案を撤回し、委員会の意見を取り入れた修正案を14日に再提出してやっと可決されました。



井坂しんや議員

議案撤回は1963年以来47年ぶり。吉田市長は8日の審議では「修正しない」と強気でしたが、道理のない組織改正案は通りませんでした。

井坂しんや議員は健康保険課を健康福祉部から市民部に移管することに対して「介護保険との連携が重要」「地域医療政策と密接な関係をこわす」などと意見を述べ、修正案に反映されました。

略歴

東京都江東区生まれ。電機関係の会社に勤務。水道検針員。光洋小PTA会長など歴任。現在、市議1期、民生常任委員。横須賀勤労者学習協会事務局長。家族は夫と一男。住所：浦賀6-18-1



大村洋子

日本共産党横須賀市議会議員

今年選挙の年、政治を変える大きなチャンスに

くらしの守り手として、 新年の決意新たに

新たな年がスタートしました。
長引く景気の低迷、社会保障の負担増、外交問題など日本の先行きが見えない状況が続く、いまの政治はその解決策をまったく示せない混迷の状況に陥っています。
このような時だからこそ将来の展望をしっかりと国民・市民に示すことのできる政治が求められていると思います。
今年選挙の年です。くらしの守り手として日本共産党の議席を伸ばしてください。みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

2011年元旦 日本共産党横須賀市会議員団

横須賀市議会 第4回定例会のご報告

ねぎしかずこ議員と 大村洋子議員が一般質問



何のための「事業仕分け」だったのか？

市民の注目を集めた事業仕分けでしたが、多くの疑問が残るものとなりました。市民は「ムダの削減」への期待、市長は「削減だけが目的ではない」と言い、仕分け人を委託した「構想日本」は独自の価値観で大なたを振るうという、それぞれ異なった思いのもとで実施されました。



ねぎしかずこ議員

市議会でも、地方自治体では一つ一つの事業について審議し、決定してきているので、事業仕分けについては疑問視する声が多くありました。

ねぎしかずこ議員の質問にたいし、市長は「予想外の厳しさ」などといいながら「事業仕分けは効果があった」と答えました。しかし仕分けの対象となった事業には福祉関連や市民にとって喜ばれているものが多く、選定が関係者・市民不在であり、抜本的改善が必要です。

市長は仕分け結果を来年度予算へ反映するとしていましたが、「利用者などの意見を十分に聞いて判断すべき」とのねぎしかずこ議員の質問に対し、市長は「そうします」と答弁しました。

事業仕分けで「不要」とされた事業 市民が陳情、請願で反撃、議会も応援

事業仕分けで仕分け人（「構想日本」の人たち）から「不要」と評価された事業のうち、「既成宅地防災工事等助成金」の存続を求める請願、「シニアリフレッシュ事業」の存続を求める二つの陳情、「はまゆう会館」の存続を求める請願が市民の機敏な動きで市議会に提出され、いずれも可決・了承されました。

「シニアリフレッシュ事業」は5人の仕分け人全員が「不要」という評価でした。このことは仕分け人たちの評価が市民や市議会といかにかけ離れているかを示しているのではないのでしょうか。

みなさんのご意見、
ご要望をお寄せ下さい。

日本共産党 市会議員団

電話：046-851-1123（呼出）
日本共産党市会議員団控室

滞納対策は強権的ではなく 市民の生活実態に即したやり方で

生活保護受給世帯へもさかのぼって滞納分を支払わせている実態を日常の生活相談活動で知り、大村洋子議員は強い疑問を抱き、一般質問で直接市長にたずねました。



大村洋子議員

今年度4月から運用がはじまった債権管理条例の中には生活保護受給世帯など資力の乏しい世帯へは債権回収の停止や放棄もうたわわれています。しかし、実態は違っていました。

大村議員は最低限度の生活しか保障されていない生活保護受給世帯から滞納回収をするのは憲法25条の生存権をも脅かすもので、やめるべきと強く迫り、市長から「市の側から積極的な納付の働きかけはしない。」という一歩前進の答弁を引き出しました。

市役所の組織改正案を総務常任委員会が否決

井坂議員の意見などが修正案に取り入れられ可決される

来年4月からの市役所の組織を改正する条例改正案が、12月9日の総務常任委員会で否決されました。二日間にわたる審議で改正の目的や効果に対する疑問が相次ぎ、全員が議案に反対。本会議でも否決されることが確実なため、市長は議案を撤回し、委員会の意見を取り入れた修正案を14日に再提出してやっと可決されました。



井坂しんや議員

議案撤回は1963年以来47年ぶり。吉田市長は8日の審議では「修正しない」と強気でしたが、道理のない組織改正案は通りませんでした。

井坂しんや議員は健康保険課を健康福祉部から市民部に移管することに対して「介護保険との連携が重要」「地域医療政策と密接な関係をこわす」などと意見を述べ、修正案に反映されました。

略歴

秋田市生まれ、東京女子大学卒、学童保育指導員、新日本婦人の会横須賀支部事務局長など歴任。現在、市議3期、建設常任委員、横須賀市基本計画の策定に関する特別委員、家族は夫。
住所：佐野町1-23 ホームページ <http://www.negishikazuko.jp/>



ねぎしかずこ 日本共産党横須賀市議会議員

今年選挙の年、政治を変える大きなチャンスに

くらしの守り手として、 新年の決意新たに

新たな年がスタートしました。
長引く景気の低迷、社会保障の負担増、外交問題など日本の先行きが見えない状況が続く、いまの政治はその解決策をまったく示せない混迷の状況に陥っています。
このような時だからこそ将来の展望をしっかりと国民・市民に示すことのできる政治が求められていると思います。
今年選挙の年です。くらしの守り手として日本共産党の議席を伸ばしてください。みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

2011年元旦 日本共産党横須賀市会議員団

横須賀市議会 第4回定例会のご報告

ねぎしかずこ議員と 大村洋子議員が一般質問



何のための「事業仕分け」だったのか？

市民の注目を集めた事業仕分けでしたが、多くの疑問が残るものとなりました。市民は「ムダの削減」への期待、市長は「削減だけが目的ではない」と言い、仕分け人を委託した「構想日本」は独自の価値観で大なたを振るうという、それぞれ異なった思いのもとで実施されました。



ねぎしかずこ議員

市議会でも、地方自治体では一つ一つの事業について審議し、決定してきているので、事業仕分けについては疑問視する声が多くありました。

ねぎしかずこ議員の質問にたいし、市長は「予想外の厳しさ」などといいながら「事業仕分けは効果があった」と答えました。しかし仕分けの対象となった事業には福祉関連や市民にとって喜ばれているものが多く、選定が関係者・市民不在であり、抜本的改善が必要です。

市長は仕分け結果を来年度予算へ反映するとしていましたが、「利用者などの意見を十分に聞いて判断すべき」とのねぎしかずこ議員の質問に対し、市長は「そうします」と答弁しました。

事業仕分けで「不要」とされた事業 市民が陳情、請願で反撃、議会も応援

事業仕分けで仕分け人（「構想日本」の人たち）から「不要」と評価された事業のうち、「既成宅地防災工事等助成金」の存続を求める請願、「シニアリフレッシュ事業」の存続を求める二つの陳情、「はまゆう会館」の存続を求める請願が市民の機敏な動きで市議会に提出され、いずれも可決・了承されました。

「シニアリフレッシュ事業」は5人の仕分け人全員が「不要」という評価でした。このことは仕分け人たちの評価が市民や市議会といかにかけ離れているかを示しているのではないのでしょうか。

みなさんのご意見、
ご要望をお寄せ下さい。

日本共産党 市会議員団

電話：046-851-1123（呼出）
日本共産党市会議員団控室

滞納対策は強権的ではなく 市民の生活実態に即したやり方で

生活保護受給世帯へもさかのぼって滞納分を支払わせている実態を日常の生活相談活動で知り、大村洋子議員は強い疑問を抱き、一般質問で直接市長にたずねました。



大村洋子議員

今年度4月から運用がはじまった債権管理条例の中には生活保護受給世帯など資力の乏しい世帯へは債権回収の停止や放棄もうたわれています。しかし、実態は違っていました。

大村議員は最低限度の生活しか保障されていない生活保護受給世帯から滞納回収をするのは憲法25条の生存権をも脅かすもので、やめるべきと強く迫り、市長から「市の側から積極的な納付の働きかけはしない。」という一歩前進の答弁を引き出しました。

市役所の組織改正案を総務常任委員会が否決

井坂しんや議員の意見などが修正案に取り入れられ可決される

来年4月からの市役所の組織を改正する条例改正案が、12月9日の総務常任委員会で否決されました。二日間にわたる審議で改正の目的や効果に対する疑問が相次ぎ、全員が議案に反対。本会議でも否決されることが確実なため、市長は議案を撤回し、委員会の意見を取り入れた修正案を14日に再提出してやっと可決されました。



井坂しんや議員

議案撤回は1963年以来47年ぶり。吉田市長は8日の審議では「修正しない」と強気でしたが、道理のない組織改正案は通りませんでした。

井坂しんや議員は健康保険課を健康福祉部から市民部に移管することに対して「介護保険との連携が重要」「地域医療政策と密接な関係をこわす」などと意見を述べ、修正案に反映されました。

略歴

法政大学卒、障害者施設指導員、民青同盟委員など歴任。現在、市議3期、市議団長、総務常任委員、党市委員会委員長、県委員、長沢中学校同窓会々長、県立横須賀大津高校バスケットボール部OB会役員、家族は妻と2女1男。
住所：岩戸3-15-7 フロン http://saka-shinya.cocolog-nifty.com/blog/



井坂しんや 日本共産党横須賀市議会議員

2011年1月 No.169
発行：日本共産党三浦半島地区委員会
住所：横須賀市公郷町2-21-1

http://www.jcp-yokosuka.jp/
Eメール：jcpyokosuka@jcom.home.ne.jp
電話：046-851-1123 FAX：852-2398

まちに活気を取り戻す起爆剤、住宅リフォーム助成の実現を

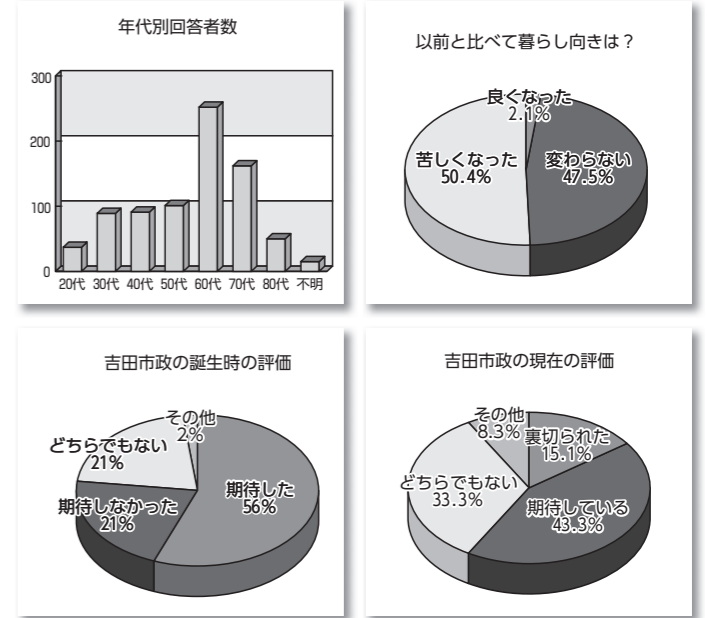
第4回定例会で日本共産党市会議員団が提案

地元の経済に活気をもたらす「住宅リフォーム助成制度」は、いま全国の自治体で注目を集めています。住宅のリフォームに対する市の助成金が呼び水の働きをして、まちの業者の仕事を増やすしくみです。助成金の4倍、5倍の仕事が生まれ、停滞した地域経済を活性化する起爆剤となっています。ねぎしかずこ議員は第4回定例会の一般質問で横須賀市でも実施するよう吉田市長に提案しました。



アンケートへのご協力 ありがとうございました

現在集計・分析中ですが、中間のご報告をします。



寄せられたアンケート数は60代が第1位でした。暮らし向きが苦しくなったという方が半数でいまの経済状態が示されています。吉田市政への期待度が高く、市政のチェンジが強く求められています。日本共産党市議団は市民の願い実現の推進力としてアンケートに寄せられた声を市政に活かすようがんばってまいります。

仕事おこしの経済対策

この制度は、「市内業者が元請けになるように」という発想でとりくまれた地元の仕事おこしの緊急経済振興策です。住宅リフォーム助成制度では地元業者に発注されますので、お年寄りなどが市外の悪質な業者による被害に遭う不安もなくなります。

市長は「調査をする」と答弁

ねぎしかずこ議員は全国に広がっている他市の例を紹介しながら、本市でもスタートするよう求めました。市長は「個人資産の形成につながるものに市費を投入するのは難しい」としながらも、「調査をする」と答弁しました。耐震化やエコ対策の改造、バリアフリー化、介護保険制度の住宅改造などと組み合わせると仕事おこしが大きく拡大していきます。ねぎしかずこ議員は、市の調査にも協力し、ぜひ実現したいと意欲を燃やしています。

〈参考資料〉
宮古市住宅リフォーム促進事業補助金申請状況 (8月20日現在)

工事内容	件数	件数割合
CO ₂ 削減	234	13.0%
生活の支障改善	21	1.2%
水洗化	225	12.5%
災害対策	134	7.5%
住宅の長寿命化	1,181	65.8%
計	1,795	100.0%

宮古市の助成制度は20万円以上の工事に対して一律10万円の助成。屋根塗装、畳替え、洗面所、台所の換気扇などの機器の更新も含まれるなど幅広い工事が対象。当初予算は5千万円(500件)、前年度から積極的な周知もあって申請が殺到し、2度も補正予算を組んで総額3億5千万円に。宮古市の予算総額310億円の1%を超える思い切った措置で、「業者に笑顔、街に活況」と喜ばれています。

原子力災害防災訓練の実効性を問う 地震と言えば「震度1」、こんな想定でいいのか

「市民と米海軍が一緒になって訓練をなぜしないのか」市民から大きな批判と不安の声があがっています。大村議員はこの問題を取りあげ市長にたどしましたが、「実施目的が違うから」という市長の答弁でした。また、原子力空母が母港化する前より訓練の規模が小さくなっているが、「災害想定が小さすぎて実践的ではないのではないか」との質問には「単に想定が大きければ良いというものではない」と答弁するありさまでした。大村議員は、市の「地域防災計画原子力災害対策編」を引用しながら、災害想定や訓練の組み合わせなどの改善を求めましたが、市長には市が決めた防災計画を守る気がないのでしょうか。こんな軽微な災害想定で訓練を繰り返して、本当に安全安心が保てると言えるのでしょうか。引き続き改善を求めていきます。

議員定数が43から 41議席に削減

横須賀市議会の議員定数が2議席減となりました。今回は単に「財政難」という理由だけではなく、民主主義の根幹をなす議会の在り方や議員定数の基準など、本質的論議ができたことは大変重要だったと思います。私たちは、多様な意見の反映と少数意見の尊重の立場から現状維持を主張しました。議員期末手当については特別職(市長・副市長)と同様の月数にすべきと議案提案しましたが、採決の結果、市長などよりも0.15か月多い支給となりました。

日本共産党市議団が2011年度予算に対する要望書を 市長に提出

日本共産党市議団は毎年予算要望書を市長に提出。これまでに、小学校就学前までの小児医療費無料化、父子家庭へも児童扶養手当支給、マリンショップ開設、学童保育のひとり親助



成、特例子会社誘致策、中学卒業までは資格証ではなく保険証発行などが実現されました。市議団は10月21日、来年度の予算要望書を市長に手渡しました。提出にあたって、井坂議員は「重症心身障がい児の入所施設の設置を急ぐように」、ねぎしかずこ議員は「ひとり暮らしで足腰が弱ると、ゴミ出しや買い物にも困難をかかえている。是非対策を」、大村議員は、「住友跡地問題を早く解決して、浦賀の再生を」などと要望内容を説明しました。

またも米兵犯罪！ 「軽微な事件」ならいいのか？

11月21日午前3時の真夜中に米原子力空母ジョージ・ワシントンの乗組員が酒に酔って米が浜の民家のひさしに乗るとい



山崎さんとねぎしかずこ議員

ねぎしかずこ議員は12月2日の一般質問でこの問題を取り上げました。市長は「軽微な事件だから、私みずからが外向いてまで抗議はしない」「米兵にも基本的人権がある」などと米軍をかばうような答弁に終始しました。ねぎしかずこ議員は、2006年の1月に米が浜で起きた米空母キティホークの乗組員による女性強盗殺人事件の被害者の夫で、米兵犯罪根絶のために奮闘している山崎正則さんとともに現場を視察。米兵犯罪マップを広げて米山崎さんとねぎしかずこ議員兵犯罪根絶を改めて誓い合いました。

う、住居侵入の米兵犯罪が起きました。